



あすぴあ通信

2013.3
32号

発行：小平市民活動支援センター あすぴあ

山崎章郎さん講演会
地域の中でホスピスケアを
ケアタウン小平の取り組み

開催
しました

2013年2月16日(土) 午後2時～4時

小平市福祉会館 小ホール

講師：山崎章郎さん(ケアタウン小平クリニック院長、
NPO法人コミュニティケアリンク東京 理事長)

山崎章郎（ふみお）さんは、地域でのホスピスケアを始めたきっかけから話しました。学生時代、北杜夫の『ドクトルマンボウ航海記』に憧れて北洋のサケ・マス母船や南極海地質調査船などの船医として働いたこと、また、船医時代にE・キューブラー・ロスの著書『死ぬ瞬間』に出会ったことから、桜町病院のホスピス医師になりました。

山崎さんはホスピスで学んだこととして、5つのことを挙げました。ひとつは苦痛症状緩和の大切さ。痛みから解放されると人には余裕が出ます。次に、嘘をつかないことが大切だと説明しました。3つ目は、チームケアの大切さ。4つ目は、ボランティアとの協働の大切さです。

ボランティアに車椅子を押してもらって散歩に出掛けられた日は、「生きててよかった」とその人は思います。5つ目として、生きる意味を見失ってしまった人々へのケア（スピリチュアルケア）が大切だと、山崎さんは話しました。



開場してまもなく座席が満員となりました

1面：山崎章郎さん講演会 報告
2～3面：あすぴあの一年をふりかえって
国際交流関係団体の交流会 報告
4面：平成24年度小平市市民協働講座
報告ほか



山崎 章郎さん

山崎さんのクリニックがある、ケアタウン小平は小さな社会そのものです。24時間対応の訪問看護ステーション、デイサービス、NPO法人コミュニティケアリンク東京、株式会社の訪問介護ステーション、いっぷく荘という名のアパートもあります。そして、このケアタウン小平に関わる人たちの会がいくつもあります。ご遺族交流会、ケアタウン小平スタッフとボランティア交流会、子育て支援の一環としてのデイサービスでの「幼児英会話教室」（いずれも無料）などです。中庭では、子どもたちがサッカーをする姿が見られます。山崎さんは、「わたしたちが在宅でお手伝いした方がたちが、今度はわたしたちをお手伝いしてくださる」と話しました。毎年秋には、ケアタウン小平応援フェスタを開いて、「生きててよかったね」という想いがひとつになります。そして最後には、参加者の願い事が入った風船を空へ飛ばして見送ります。

山崎さんたちは、「最期まで人権が守られ、尊厳と自立を持って暮らせることを保障するコミュニティ」をめざして活動しているというお話をでした。

「一度は講演を聞きたい」という市民からの問合せが市報掲載後からひきもきらず、あすぴあは対応に追われました。当日の駐車場も会場前だけでは足りず、市役所の駐車場を借りました。会場までお越しいただきましたのに、座席がいっぱい入場できなかった皆さま方にお詫び申し上げます。